

# 令和3年能勢町議会9月定例会議報告

9月10・13・14・27日 開催

9月定例会議には、報告1件、補正予算2件、決算8件、契約案件1件、その他1件、議会議案1件の合計14件が提出されました。賛否の分かれた案件は3件で、その他の案件は賛成多数で可決・認定されました。賛否は次頁のとおりです。

## ◇令和3年度能勢町一般会計補正予算(第4号)

補正額 2,562万円

(主なもの)

・子育て世帯生活支援特別給付金	620万円
・地域再生可能エネルギー導入促進事業費	735万円
・3年農地災害復旧費	180万円

## ◇令和3年度能勢町介護保険特別会計補正予算(第1号)

補正額 2,287万円 (令和2年度決算による精算)

## ◇令和2年度能勢町一般会計歳入歳出決算認定について

### 【反対討論】奥 久明

職員数減等で人件費抑制とあるが、実際は既発債の元金償還開始で公債費は増額、高齢化率も上昇している。歳入が地域社会再生事業費で増額しても実質単年度収支はマイナス8,596万円の状態である。

今後は公共施設再編整備事業等の起債償還、残施設の利活用・除去費用、経常経費増加や人口減少・少子高齢化で自主財源減少が見込まれ、財政調整基金を取崩す厳しい財政運営であり豪雨災害等の突発的事象があれば改善が見込めないと考える。

財政が厳しい中で住民サービスを低下させない健全な財政計画、そのための具体的施策があると思えず反対する。

### 【賛成討論】岡本 ひとし

コロナ禍の中で今まで経験したことのない予算執行であり、自主財源である町税等はほぼ現状となったが、交付税の増額、新型コロナウイルス感染症に係る国庫補助金の増額等大きく影響した決算となった。特に、特別職および議員報酬をカットし、コロナ対応に寄与したことも付け加える。

事業執行には、各部局において大変苦慮されたことが見受けられるが、自主財源の町税等の徴収に努めたことには一定の評価を示すが、今後、起債に係る償還や経常経費等の更なる精査を実行し、財調からの繰入等を最小限に食い止めていくことを望み賛成する。

### 【反対討論】井上 加奈子

公共施設再編整備事業について、当初より住民への説明不足や内容の不透明さについて指摘されている。厳しい財政状況の中、多くの財源を充てる当事業に不安の声が聞こえるが、立ち止まって見直すことなく走り続けている。

公共施設再編整備は令和2年度で終わらず、整備中及び計画未定の公共施設はまだ複数ある。今後も続く当事業について、十分な情報公開を行いながら住民への丁寧な説明や調査は必須だが、残念ながらそれが達成されていない状況と捉える。よって、公共施設再編整備事業が含まれる本決算の認定に反対する。

### 【反対討論】中植 昭彦

決算は、実質収支比率96.9%と依然、財政は硬直化している。地方交付税は、約1億円増加、町債は約2億円を起債しているにも関わらず、実質単年度収支は8,596万円の赤字となっている。今後、公共施設再編整備事業費、借金返済、経常経費の増加が見込まれ、行政サービスを維持する予算を確保するために、財政調整基金で補填が示されている。

旧役場を除き、更に旧学校施設や使用を終えた施設の除却や利活用の費用は算入されていない。ある歳入で歳出を決定していきたいとの答弁であったが、人口減や高齢化等によって歳入は年々減少していく。住民サービスの低下、削減が危惧される本決算認定に反対する。

### 【賛成討論】長尾 義和

本決算は、議会が認めた予算を、その趣旨と目的に従って適正に執行されている。

先ほど財政的なことから反対討論があったが、多額の一般財源を繰り出している特別会計決算は決算常任委員会で賛成している。理解しがたい。

役場新庁舎や消防新庁舎の完成をはじめ、高度産業化プロジェクトやICT教育環境整備など順調な進捗をよく見ている。特に新型コロナウイルス関連では、国や府と一丸となって住民生活を守るため様々な支援策が講じられた。

本決算が、「里山未来都市」実現に向け、令和4年度の予算編成につながることを期待し、賛成する。